

砥石のメンテナンス

荒砥の面直しを中心に

金子

1. 面直し

包丁を研ぐために砥石を連続して使っていると中央部が低く凹んできて、別の包丁を研ぎ出す時に研ぎ辛く包丁の平に傷をつけて仕舞ったりするので、砥石の研ぎ面を平らに直さねばなりません。

面直しの方法は専用の修正砥石を使う方法や道路の縁石を利用する方法などが有りますが、今回は庭先に置いた縁石とU字溝の蓋を利用した方法をご紹介します。

短い出刃包丁などは凹んだ溝で研ぐと形が崩れないので楽だ、或いは彫刻刀等の場合は丸刀の寸法に合わせた溝や丸砥石を作るのは特殊な例なのでここでは触れません。

2. 縁石

縁石(10cm幅)

何回か使っている
ので表面のモルタル
が剥げて小粒の
砂利が出てきてい
ます。



3. 砂

研磨剤として砂を使います。

左のボトルが川砂、右が砂鉄混じりの某海岸採取の砂です。



4. 砂と水

乾燥していると
砂が飛び散り
研げません。

かなり大きな小
石レベルも混
じっています、
ふるいにかけて
たほうがいと
考えています。



5. 面直準備

縁石に砂を撒き
砥石は水に浸け
て置き十分水を
吸ったら砂にも
水をかけます。



6. 砥石摺合

砥石を乗せて縁石の上を往復させます。

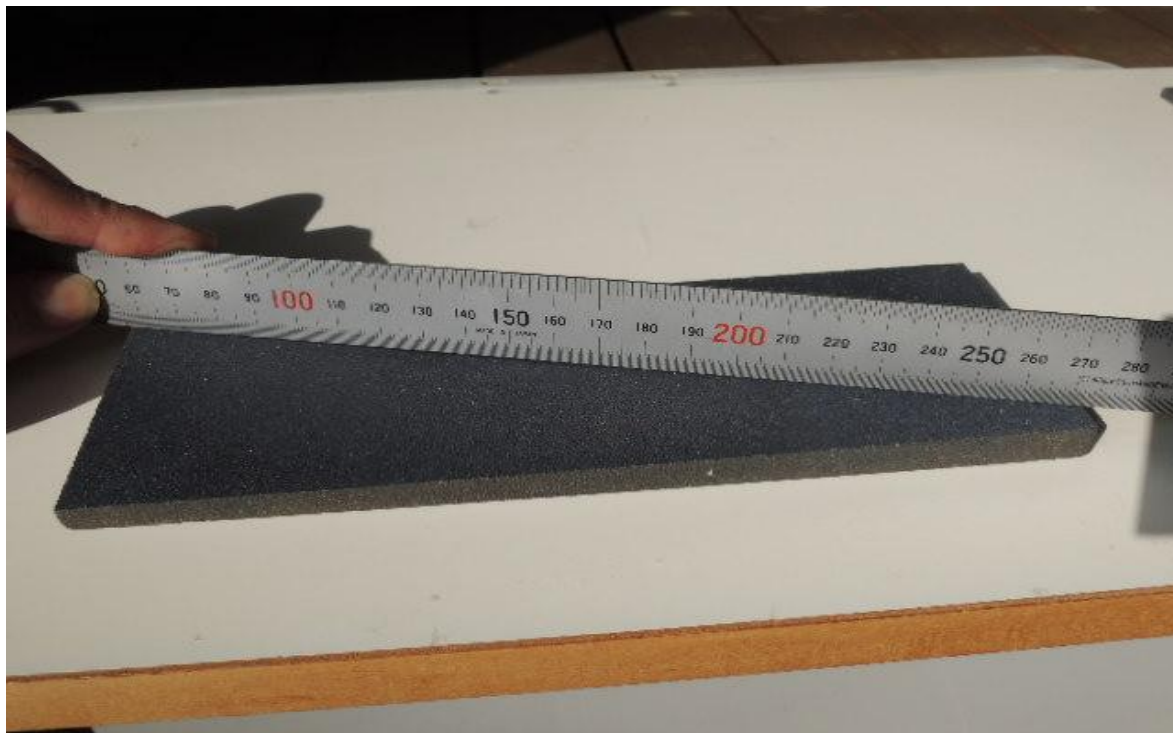
最初はがたがたしていますが、水を差したり砂を足したりします。



7.平面チェック

摺り合わせが終わったら表面精度を確認します。

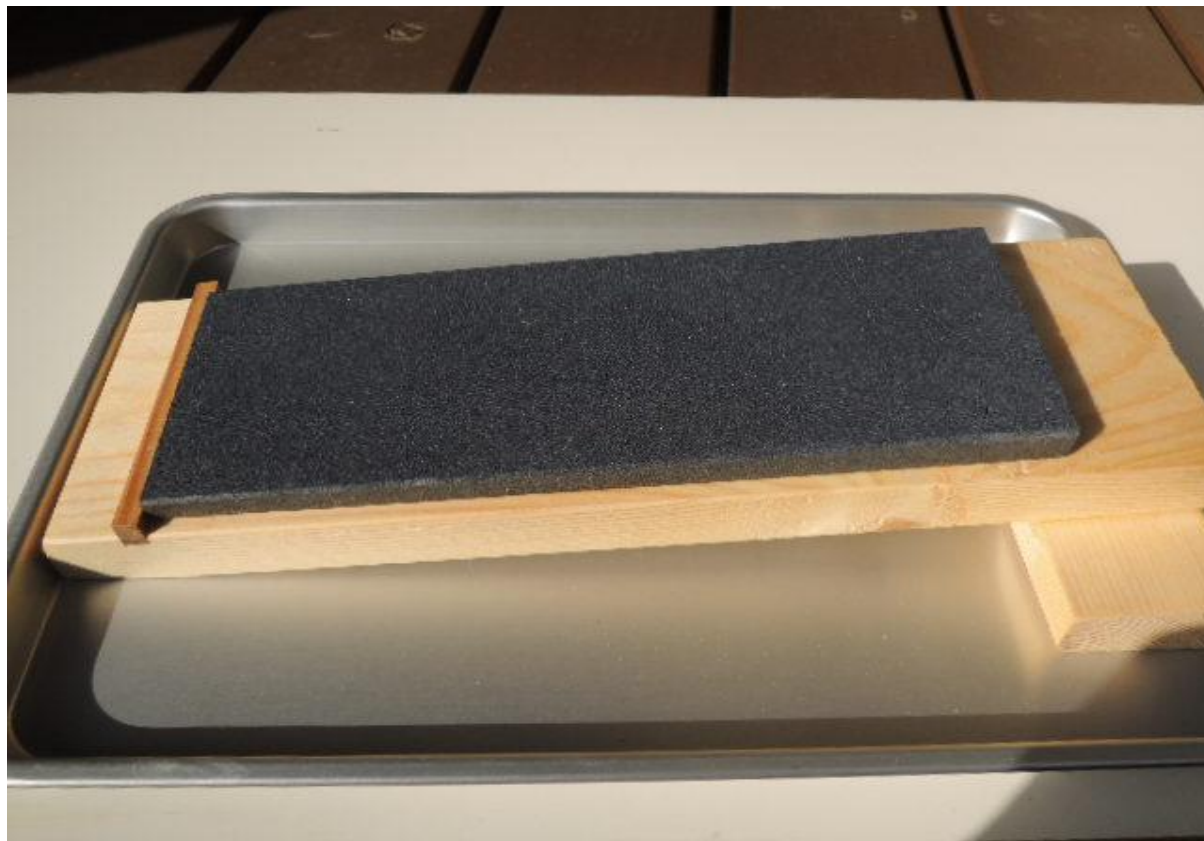
ステンレス直尺を砥石の対角線に当て目の高さで隙間がないかを確認します、反対の対角も同様に確認します。



8. 砥石台

薄くなった砥石は
台に乗せて使用
します。

錆落とし等の時
アルミバットが汚
れを防ぎます。



9. U字溝蓋

移動用です。

長さを16号のプラケースに収まる様に切っています。



10. 研ぎ桶

木製の馬をプラケースに渡して砥石台として使っていました。

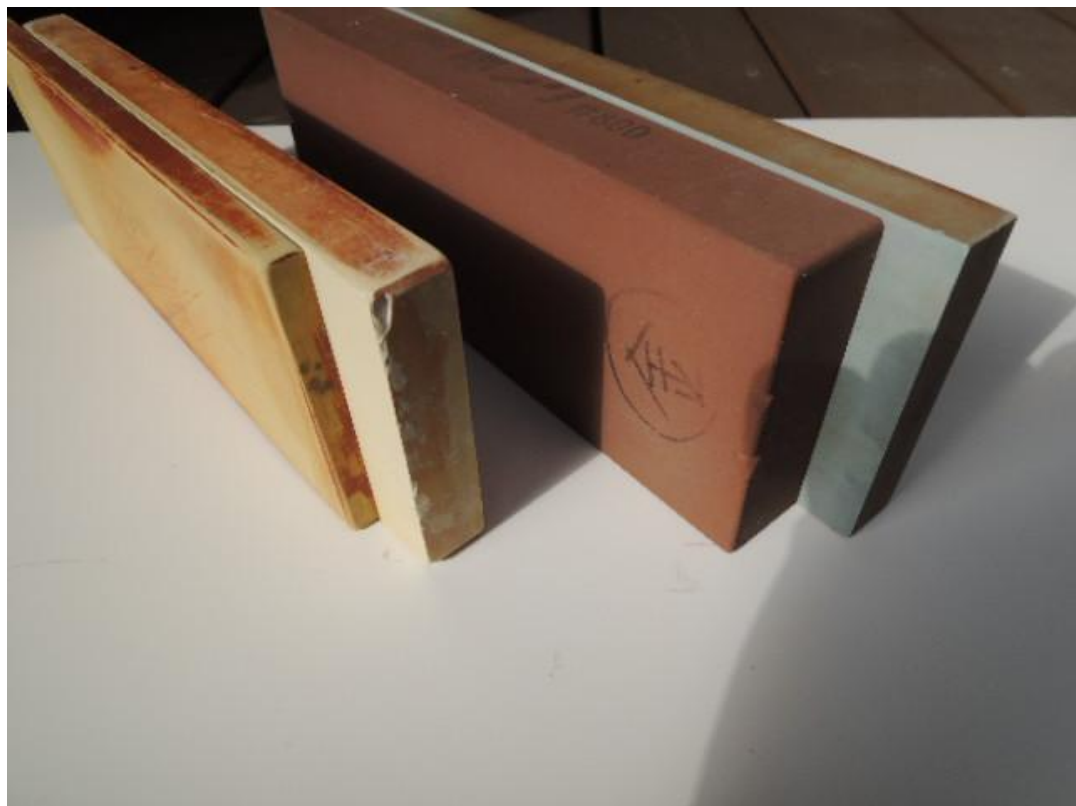
最近はアルミバットの砥石台を使うことが多くなったので、砥石修正器？となりました。



11. 中砥～仕上砥の面直し

荒砥より平面精度が要求されますので、ガラス板に紙やすりを貼り付けたもので砥石を直しますが、同じ番手同士の共擦りもよく行います、共擦りの場合は3個以上を順繰りに使って偏りが出ないようにしています。

場合によっては、荒砥と同様に縁石でやるか、荒砥で直すこともあります。

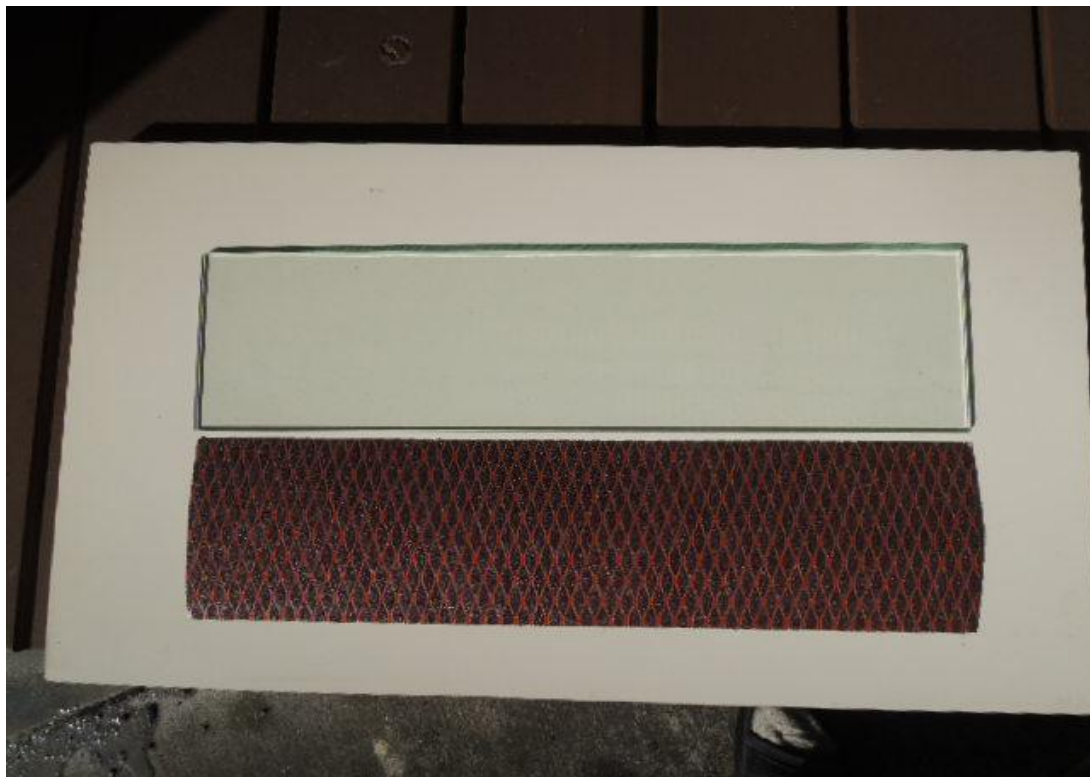


12. ガラスと紙ヤスリ

ガラスは旭硝子の強化なんとかという製品の切れっ端を切ってもらいました、厚さ5mm 長さ40cm幅10cm。

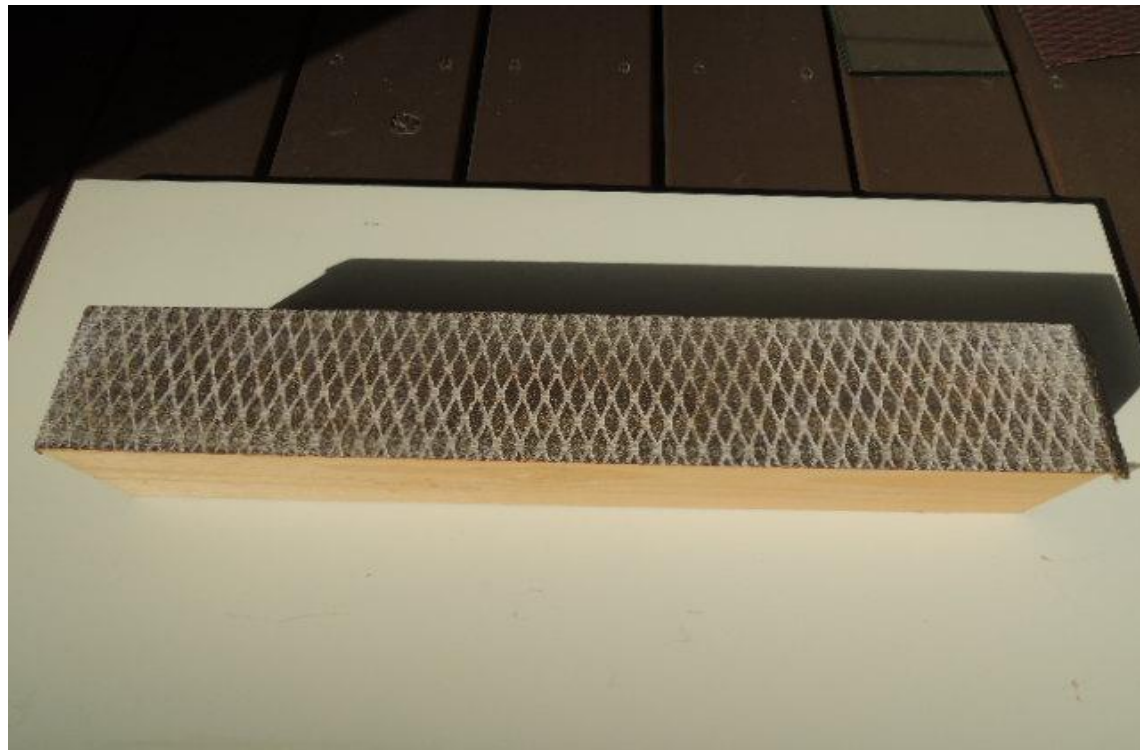
ヤスリは60番です。

使うときは水をかけて使います。



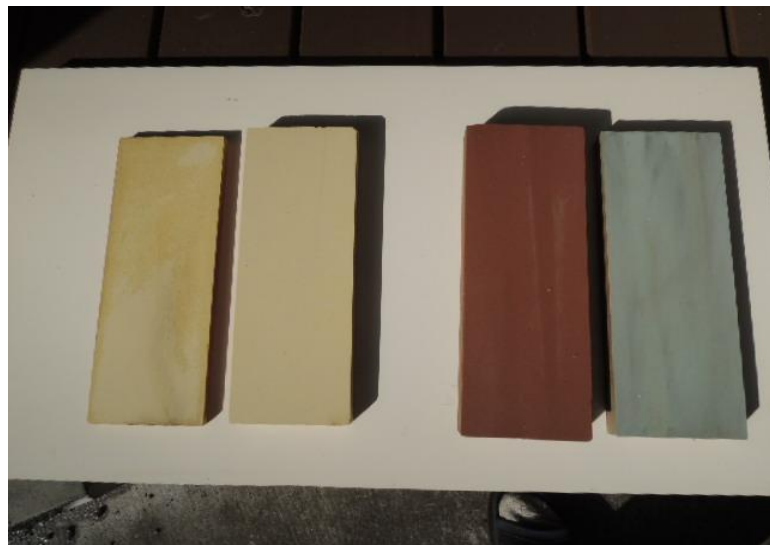
13. 紙ヤスリは万能？

木台に貼り付けると鉋の台を修正するときに使えます、ベルトサンダーが無くても時間をかけることで結構削れます。



14. 面取り

修正が終わったら左右の角が90度になっていますので面取りをします。



砥石の底に当たる面は、砥石の寿命が終わるまで研ぎに使ったりしません、その為に新しい砥石を使い始めるときにマークを付けて間違わないようにします。

15. 終わりに

ご清聴ありがとうございました、
皆様の参考になれば幸いです。